

第19号

平成29年7月20日発行

宮崎市神宮西1-49-1

TEL : (0985) 32-2234

<http://www.sanyu-kai.jp/>

発行者 石川 智信

# 三友会だより

## 日々変わらぬことのありがたさ

石川 智信

今年2月、私の敬愛する医師が一人旅立った。宮崎の緩和ケアを変え、在宅緩和ケアを支えてくれた彼女はまだ56歳であった。先日NHKで報道された彼女の足跡を改めて辿ってみて、もう二度と得られない人物を失ったことを思い知らされた気がする。

宮崎市郡医師会病院に緩和ケア病棟が作られたのが、17年前である。いろんな幸運が重なって、初代病棟医長に彼女を迎えることができたのは奇跡というしかなかった。その当時、在宅医療を行う仲間をどうしたら増やせるか悩んでいた。特に治らない癌を抱えた患者さんを在宅で支え続ける診療所を増やすためには、いざという時にバックアップしてくれる病棟の存在は不可欠であった。一方で緩和ケアの専門医は全国でもわずかしおらず、その争奪戦は大変なものであった。そのような時期に彼女は、夫の出身地であるとはいえ、宮崎に来てくれた。そして私たち在宅医療を行っている医師の入院依頼に対して、時間を問わず一度も断らず、24時間365日支え続けてくれた。

その彼女に末期がんが告げられたのが2年前であった。そして最後まで生きる意志を持ち続け、自らが手塩にかけて育てた緩和ケア病棟の看護師達に最後のケアを委ねて旅立った。彼女が癌と戦っていた際の思いを、暮らしの手帖86巻に投稿している。彼女の母親として、妻として、そして一人の患者としての思いが綴られた文章は、読む側の姿勢を凜とさせるものがある。一日一日を丁寧に「暮らす」、一つ一つに心を込めて「暮らす」、その積み重ねが「生きる」ということなのだと言った彼女の心情を思う時、涙が止まらない。

私の妻がクモ膜下出血から生還した時に、彼女は涙を流して喜んでくれた。あの頃、特別な日はいない、変わらず日々平穏に生きることができると毎日神様に祈っていたことを思い出す。今妻は、早朝に起きて散歩し、部屋中にモップをかけて掃除し、プランターに花を育て、日本舞踊を踊り、そして絵を描く。毎日毎日歩みはのろいが、日々変わらぬ生活を送っている。人は非日常の生活にあこがれ、日々が大きく変わることを期待し、刺激的な明日を待ち続ける。だが当たり前だった退屈な日々が、いかに愛おしく、大切なものであるかを知るために、私たちは多くの犠牲を払っているのだと思う。先日奥様を亡くされた市川海老蔵さんも、妻の闘病中に昨日と変わらない日を迎えることのできるありがたさを語っていた。

今一つのことを妻と共有するために、かなりの時間が必要である。失語症というハンディーを負う中で、紙に絵や漢字を書いて思いを伝えようとする姿は、日々を丁寧に、心を込めて暮らす姿そのものである。私自身もこの与えられた日々を大切に生き

たいと思う。

# 「博物館で思い出を語ろう！」事業について

県総合博物館 学芸課 副主幹 小山 博

博物館というと、何か敷居の高い、ちょっと行きにくいという感じがあるかもしれません。小学校の遠足で行ったことはあるけど、それ以後は行ったことがないという方もいらっしゃるかもしれません。しかし、博物館では子どもや親子を対象としたいろいろな講座を行ったり、さまざまな展覧会やイベントを実施し多くの県民の方に来館してもらうような取り組みをしています！！

そうした取り組みの中で、県総合博物館では「博物館で思い出を語ろう！」という事業を実施しています。博物館には、昔使っていた道具や身近な植物や動物などの資料が展示されています。それらの資料を見ながら、高齢者の方々に思い出を語ってもらうというものです。

特に民俗の展示室は、昭和30年代の資料を主に展示しており、高齢者の皆さんにはなじみのあるものがたくさん展示されています。

また、博物館には解説員という職員がいます。解説員は、主に博物館に展示している資料に関する説明をしたり、来館されるお客様の質問に対応したり、直接お客様に対応する仕事をしています。しかし、実際に使った経験がないものがほとんどですから、解説するのも大変です。

「博物館で思い出を語ろう！」では、解説員が中心となり、資料が展示されている展示スペースを使って、テーマごとに高齢者の方々に昔の思い出を語ってもらっています。高齢者には子どもの頃や若い頃に体験したことを思い出しながら語ってもらいま

す。思い出すことで脳が活性化され、生き生きとした感じでお話しをされるようになります。昔の道具を見て、「洗濯板をこのように使って洗濯していた。」と動作を交えながら楽しく語ってもらうこともあります。解説員は高齢者に体験談を聞かせてもらうことで、自分たちの解説の参考にしています。特に小学生への説明では、実際どのように使っていたのかなどの説明でとても役に立つと言っています。

博物館で楽しいときを過ごしていただければと、私たちスタッフは取り組んでいます。ぜひ、博物館で昔の思い出をいろいろと語りましょう！



民族展示室にて



自然史展示室にて



6月1日に開所いたしました！

地域密着型通所介護

さ ち  
わ  
人の話くらぶ佐智

人の“わ”『話・輪・和』をとりもどし、皆様に“さち”『幸・佐智』を…

～ごあいさつ～

失語症や麻痺性構音障害あるいはパーキンソン病などで言葉がはっきりと出なかったり、呂律が回らなかったりして周囲とのコミュニケーションがうまくとれない方々がたくさんおられます。通常のデイサービスの集団訓練やレクリエーションでは普通に話せる人たちのペースで進んでしまい言葉の不自由な方々が十分に意志表示できず、歯がゆい思いをされているということもよく聞きます。一方で失語症などは期間が限られた医療リハビリを修了した後も継続的にフォローしていくことでゆっくりではあっても確実に回復していくと言われてしています。

「人の話くらぶ佐智」は全国でも珍しい失語症などのことばの不自由な方々のための通所施設です。専従の言語聴覚士が専門的な検査に基づき、マンツーマンで個別訓練やグループ訓練を行います。同じような症状を抱えた方々との交流は相互理解と自信につながり、思いもよらぬ効果をもたらします。そして新たな信頼関係の形成と社会参加へつながっていくことでしょう。

ことばの不自由な方々が笑顔で生き生きと人生を歩んでいけるように精一杯ご支援をしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

管理者 田原公彦

～施設の特徴～

♡失語症や構音障害など「ことば」が不自由な方々の為の通所施設です。

♡専従の言語聴覚士が個別訓練やグループ訓練を行います。

♡「ことば」の不自由さをもった方々の交流と安らぎの場です。

“ことばの不自由な方々の想いを受け止め、願いを叶えるために”

～施設内の様子～



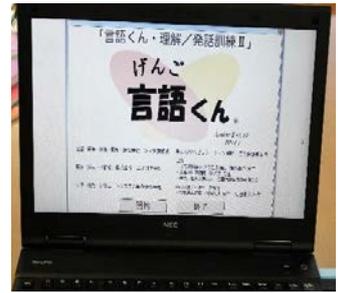
フロア全景



個別訓練



グループ訓練



言語訓練ソフト



見学・体験大歓迎です！  
スタッフ一同、心より  
お待ちしております！

〒880-0024

宮崎市祇園2丁目17番1

(旧祇園デイサービスセンター)

## 清水一丁目の朝日

中馬美利（デイケア利用者）

「一週間のご無沙汰でした。玉置宏です。」これはロッセ歌のアルバム名司会者である、玉置宏さんのお言葉。番組の提供はお口の恋人ロッセです。本件は清水一丁目の朝日の続編になります。前回読んでない方々、心配ご無用です。そこまで凄い内容ではございませんが、前回分を読みたいと言う方はいしかわ内科のホームページに三友会便りのバックナンバーがございます。操作出来ない方等々ありましたら事務局までお問い合わせ下さい。（事務局の方よろしく願いいたします）尚、内容は筆者の幼少期の思い出を徒然なるまま書き記すだけです。皆様の茶飲み話のきっかけになればと思います。

前回好評だったのかテゲテゲだったのかは分かりませんが、執筆の依頼が再び来たのでした。よって(酔って、ではありません(笑))記憶の糸を手繰り寄せることに致します。

糸の始まりは昭和三十四年ですから、亥年、A型、牡羊座と分かります。同じ学年に皇太子殿下、渡辺謙さんがいます。だからと言って面識あるわけではありません。（相変わらず能書きが多いようです）当時のヒーローを上げるなら、ウルトラマン、仮面ライダーでしょうか。勧善懲悪主義と思いきや、考えさせられる物語が多数あります。ウルトラマンだと某国の宇宙飛行士ジャミラが有名。退治するだけではないガバドンの星座化。亡霊怪獣シーボーズ等々。ウルトラマンがどうして子供達のヒーローとなれたのか。必殺のスペシウム光線を使用しないのは何故か。こんなエピソードがあります。ウルトラマンの最終回、ウルトラマンは故郷のM78星雲に帰ることになります。ウルトラマンはハヤタ隊員と分離され、迎えに来たゾフィと一緒に空へ飛び立ちました。番組はこれで終わりですが、番組が終わると外へ出て夜空を見上げる子供たちが多数いたそうです。中にはさようならを連呼する子もいました。（そのうちの一人かも）

宮崎名物数々あれど、地下道入り口がMRTミックとボンベルタ橋の地下1階にあり、お互いが繋がっています。確か出来たのが小学生か中学生の頃だったと思います。次の地下道が出来のを楽しみにしていましたが、未だに出来る気配すらありません。

夏が近づくと学校のプール清掃があります。一冬越したプールには、様々な虫やら何やらかんやらが生息しています。みずすまし、ゲンゴロウ、水蠅螂、タガメ等々。西池小学校のプール清掃は楽しいです。夏到来です。夏と一緒にTUBEが登場するのが当時の歌番組の定番。冬はTUBEは何しているんだろう？という会話が毎年ありました。TUBEは冬は冬眠しています。（ここ試験に出ます（笑））

そして夏の夜空を飾るのは花火。花火大会は今も昔も大淀川の堤防で行われます。この頃は2階の物干し台からもよく見えました。物干し台はその後改築され、風呂になりました。五右衛門風呂です。しかし夜空には星が似合います。星座がよく見えました。当時は興味がなかったのでよく憶えていません。

おや、サイレンが聞こえてきました。メロディはドヴォルザークの家路（新世界より）。橋百貨店の鉄塔からのようです。今ならうるさいと怒鳴り込む人がいると思われる音量でしたが、不思議とそのような声は聞いたことはなかったように思います。毎晩9時はサイレンです。サイレンを聞きながら眠る毎日です。続きはいしかわ内科デイケア新聞で。

※中馬さんはいしかわ内科デイケアの日頃の様子をデイケア新聞として発行されています。





## 祇園デイサービスセンターが新築移転しました



今年4月に祇園デイサービスセンターは祇園2丁目から和知川原3丁目(宮崎商業高校の東南側)に新築移転しました。移転に伴い施設内紹介をさせていただきます。



### ～施設紹介～

#### 【機能訓練室(フロア)】



明るく開放的な造りとなりました。ここではお食事やリハビリ、体操などその方に合わせたプログラムを行い楽しく過ごして頂きます。

【浴室】浴室も広くなり、個浴が2槽、特殊浴槽も1槽導入しました。どなたでも心地よく湯船に浸かることが可能になりました。



#### 【多目的室】



ご利用者家族の集いや、地域の方々への開放など多様な目的の為の部屋となっています。

●新築移転に伴い、利用者定員数が増員されました。見学や体験利用は随時受け付けておりますのでお気軽にご相談下さい。ご利用者ご家族がこれからも安心して在宅等で過ごしていただけるよう、スタッフ一同全力でサポートさせていただきます。よろしくお願い致します。



祇園デイサービスセンター  
住所 宮崎市和知川原3丁目17番地  
TEL 0985-83-2212

# 新人紹介

川越 由理  
(人の話くらぶ佐智 看護師)

介護福祉士を得て、20年前に看護の道へ進みました。卒業後は、看護師として病院や小規模多機能施設、特別養護老人ホームで経験を積みました。どうぞよろしくをお願いします。



石川 努  
(人の話くらぶ佐智 介護職)

4月からお世話になってます。研修で万智には大変お世話になりました。言語障害のある方々の介護なので違ったスキルが求められると思いやる気がわいています。よろしくお願いします。



蘭田 恵子  
(人の話くらぶ佐智 介護職)

5月16日からお世話になってます。時代の流れと共に色々進化していきますので、まだまだ分からぬ事が多いですが、初心を忘れず頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



草留 洋子  
(人の話くらぶ佐智 介護職)

以前も介護の仕事はしていましたが、また新たな気持ちで仕事をしていこうと思っています。ご迷惑をおかけする事が多いかと思いますが、よろしくお願いします。



谷口 智子  
(人の話くらぶ佐智 介護職)

5月16日付けで入職いたしました。至らない事も多々あるかと思いますが、利用者様が安心して、笑顔で過ごしていただける様誠心誠意頑張りますのでどうぞよろしくお願いします。



長友 久美子  
(祇園デイサービス 介護職)

4月11日より入職しました。経験年数は4年目で、奥深い介護をまだまだ学びながら利用者や家族の笑顔のため、お力になれるよう頑張っています。



牧野 八千代  
(祇園デイサービス 看護師)

4月に入職しました。祇園デイサービスを利用される皆様に快適な時間を過ごしていただけるように日々笑顔で精進します。どうぞよろしくお願いいたします。



坂本 誠一  
(健幸くらぶ万智 理学療法士)

以前は総合病院で勤めていたが、在宅でのリハビリテーションに興味があり、今回いしかわ内科に入職する事が出来ました。精一杯頑張っていきますのでよろしくお願いします。



荒木 麻里  
(健幸くらぶ万智 介護職)

2月16日より入職いたしました。入所施設の経験はありますが、デイサービスは初めてになります。少しでも色々なことを学び、皆様のお力になれるよう笑顔で頑張ります！！

